



地域包括ケア病棟広報誌Design号外31号です。表面は、“彩り”で受け入れした事例の紹介です。裏面は、9月のお問い合わせ件数の報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第45回）

～ 今後も定期的に地域包括ケア病棟“彩り”を利用の予定です ～

以前より神経難病に罹患されていた70歳代の患者さんです。今回、誤嚥性肺炎で入院となり、病状的には落ち着いたものの、経口摂取が困難な状況となりました。栄養補給の方法として当初、胃瘻造設の話が出ていましたが、胃がん術後のため胃瘻造設は難しく、食道瘻を造られることになりました。1日3回の注入と数回のたん吸引が必要で、ご家族の介護負担を懸念しましたが、自宅で診てやりたいというご家族の思いから、自宅退院を決断されました。

闘病中の主介護者の負担を出来るだけ少なくしながら在宅療養できるようにと、主介護者、ケアマネジャーと何度も話し合いながら退院支援を行いました。病棟看護師より注入・吸引・食道瘻の清潔管理の指導、リハビリ科セラピストより移乗・歩行介助などの介助指導を行いました。また、ソーシャルワーカーは在宅医を探したり、必要な物品（衛生材料など）を手配しました。そして、退院前カンファレンスでは、必要な介護サービス（訪問看護、デイサービス）を安心して利用して頂けるよう、専門職で話し合いました。

*

医療処置が必要であるため、介護施設のショートステイの利用は難しいと予想され、今後も定期的に地域包括ケア病棟“彩り”でレスパイト入院を利用される予定です。退院後、“彩り”の看護師が自宅を訪問したところ、ご本人と奥様の生活のペースをゆっくりと取り戻しながら在宅療養をされているとのことでした。

末永く在宅での生活して頂けるよう、レスパイト入院や緊急時のスムーズな受入れなど、当院で出来ることを行っていきたいです。少しでも支えになれば大変嬉しく思います。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

「山城ケア病棟」と検索下さい。

地域包括ケア病棟広報誌“Design”のバックナンバーがご覧頂けます。もちろん、スマホでもご覧頂けますので、お気軽にアクセスして下さい。



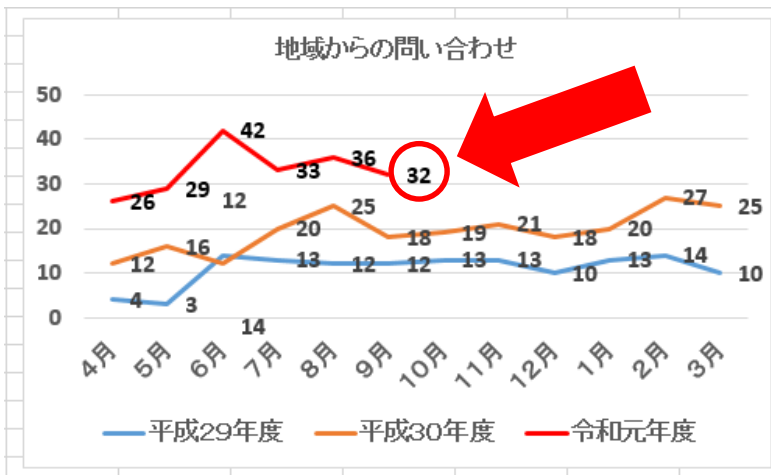
山城ケア病棟

検索



9月の問い合わせ状況について

～ 年末年始の受け入れもさせていただきます ～



9月、地域の皆様から頂戴していません問い合わせ件数は32件となっています。

秋の連休・年末年始のお受け入れもさせていただきますので、お気軽にお問い合わせ下さい。お待ちしております。

(南出)

0774-73-1818

(担当：中野・中嶋・松田)

地域医療連携室より

～ 「カフェカフェ」に参加して～



9月30日(月)、当院9階会議室で開催された第4回「カフェカフェ」に、岩本副院長、棚田OT、谷川臨床心理士、松田SWと参加しました。この「カフェカフェ」は、相楽圏域の認知症カフェについて語り合うことを目的として、山城ぬくもりの里の株柳ケアマネジャーが約3年前に始められ、第4回目の今回は1年半振りの開催となりました。

冒頭、株柳ケアマネジャーより「カフェカフェ」の趣旨説明などがあり、その後、「ぶらり隣の認知症カフェ」と題して、ご自身が見学された精華町と木津川市の認知症カフェの報告をして下さいました。当院は数年前より、木津川市社会福祉協議会が実施している認知症カフェ(こすもすカフェ)に協力し、主に相談業務を担っていますが、いろんな運営の仕方があるのだと大変興味深く、株柳ケアマネジャーの話を聞かせて頂きました。

株柳ケアマネジャーの報告の後は、グループワークです。それぞれの地域で実施しておられる認知症カフェの現状を聞き、学びの場となりました。当院は認知症疾患医療センターとして主に認知症の鑑別診断を行う役割を担っていますが、認知症疾患医療センターの相談援助業務に携わる者として、どのような患者さんを認知症カフェに繋いだらよいのか、という“繋ぎ方”について改めて考える機会となりました。



最後は集合写真を撮り、終了となりました。事前準備から当日の進行・発表まで、株柳ケアマネジャーには大変お世話になりました。ありがとうございました。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)